

特別企画展

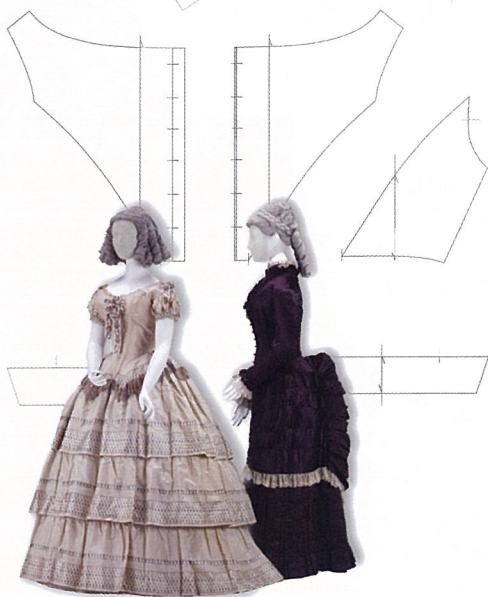
History of Costume

西洋服装史

19世紀ヨーロッパのドレスを中心に

2012年

10月18日[木] → 11月22日[木]



休館日 = 日曜・祝日

10月29日(10月28日は開館)

開館時間 = 9:30 ~ 17:00

開催場所 = 東京家政大学内・百周年記念館5階展示室

下車駅 = JR埼京線「十条駅」徒歩5分

都営三田線「新板橋駅」徒歩12分

観覧無料

特別企画展

西洋服装史

19世紀ヨーロッパのドレスを中心に

2012年 10/18 (木)

→ 11/22 (木)



産業革命とフランス革命を経て、市民がファッションを楽しむようになった19世紀。ふんわりした袖・細いウエスト・広がったスカート…などさまざまなスタイルのドレスが流行しました。

今回は、本学服飾美術学科等が教育・研究用に収集した19世紀のドレスやそのレプリカを中心に展示し、服の構造やファッションの面白さを紹介するとともに、「西洋服装史を学ぶということ」について考えていきます。



①



②



⑤



⑥

「シルエット」の不思議

特徴的なシルエットはいかにして形づくられたのか？ 裁断法(型紙)、下着、装飾などに注目し、西洋服の構造とその流行の移り変わりをみていきます。

服装史を学ぶということ

「解剖」あるいは「模写」するように歴史服にせまるレプリカ制作、学生が歴史服をイメージして制作したドレスなど、服と歴史を知るための様々なアプローチを紹介します。

「洋服」のお手本

日本へ視線を移すと…
19世紀末は洋装化のはじまりの時代。
キモノを着なれた日本人は、立体的な「西洋服」をどのように取り入れていったのか。
本学の明治時代の教育資料等でたどります。



③



④



⑦



⑧



①ファッション・ブック「Journal des Dames et des Modes」1815年 ②ファッション・ブック「Journal des Demoiselles」1855年 ③コルセット 1860年代 ④クリノリン 1860年代 ⑤ドレス 1830年代前半 ⑥⑦のレプリカ 2012年制作 ⑦ 裁縫雛形「婦人服」1905(明治38)年製作 ⑧ 錦絵「女官洋服裁縫之図」1887(明治20)年 ①～⑥東京家政大学 蔵 ⑦⑧東京家政大学博物館 蔵

表(左から): ドレス 1850年代/デイ・ドレス 1880年代/ドレス 1830年代前半 すべて東京家政大学 蔵



イベント情報

すべて参加費無料・事前申込不要



■ 講演会

「資料に語る女性生活史

—西洋歴史服実物資料、その外側から内側まで—

講師: 能澤慧子(本学服飾美術学科教授 西洋服装史)

11/1(木) 15:10~(15時開場) 約90分

会場: 東京家政大学 1号館6階 1-6 A講義室

当日15時より会場にて受付

■ 19世紀の下着~コルセットとクリノリン(複製) 着体験

10/25(木), 11/1(木), 8(木), 10(土), 15(木)

各日13:30~16:00

※混雑の際はお待ちいただくことがあります。

参加は女性の方のみとさせていただきます。

■ ギャラリートーク(当館学芸員による展示品解説)

10/25(木), 31(水), 11/14(水) 15:00~ 約40分

15時までには企画展受付にお集まりください。



* 十条駅北口を出て左手に進む
* 東京家政大学 百周年記念館5階



東京家政大学博物館

東京都板橋区加賀1-18-1 TEL 03-3961-2918

<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/hakubutu/>